
食べ物の恨みは恐いのよ！

非国民

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

食べ物への恨みは恐いのよ！

【Nコード】

N1084B

【作者名】

非国民

【あらすじ】

アニスの団子を勝手に食べたジン。食べ物への恨みを如実に描いた作品……かも

ここは、南半球に位置する小さな島国。
今、弓状の形をしているこの島国に、小さな妖精達がやってきていた。

「こらあゝつ。ジン、待ちなさあゝい。」

ジンと呼ばれた妖精は木々の間を縫うようにして逃げていた。

「だから、ごめんって謝ってるだろ、アニス。」

アニスは透き通るような透明の羽根を懸命にばたつかせ、妖精仲間のジンを追い掛けていた。

「うるさいわね！逃げながら謝るやつがどこにいるのよ！！」

二匹の妖精はなおも追い掛けっこをしている。

事の起こりは二十分前。

ジンは、木のうろにあるアニスの家に遊びに来ていた。

「おおゝい。アニスゝいるかあ？」

ジンは玄関の扉をドンドンと叩く。

「いないのかあ？」

ジンは扉を開き、アニスの家へと侵入する。

「おおっ！いいものみつけ」

ジンは目を輝かせ、机の上に置いてある花粉団子を見つける。

「うまうま（＾o＾）」

ジンがお皿の上に置いてあった花粉団子に手を伸ばしそれを頬張る。
「いやあゝっラッキーだったぜ。まさかこんな所に団子が落ちてるなんてな。」

お皿の上に置いてあっても、ジンから言わせば落ちていたのだろう。

なんの疑いもなく、それを食べる。

「ああああ〜っ!!」

後ろで悲鳴が聞こえる。

「!？」

ジンはビックリし、もう少しで団子を喉に詰まらせる所だった。軽く咳き込む。

「!？」

ゾクツと寒気がし、後ろを振り向く。

「ジイイイン！」

そこでは、アニスが頭上に大きな氷の塊を作り出し、鬼のような形相でこちらを睨んでいた。

(やばい……、殺される)

「ま……、まで、アニス。話し合おう! な？」

両手を前に突き出し、ばたばたと手を振りまわす。

「問答……、無用!!」

アニスは頭上に作り上げた氷をジンに向け、投げ付けた。

「う、うわぁ〜」

ジンは両目をギュツと閉じる。

「うつ、えっ? あれ？」

ジンは一向に訪れてこない衝撃を気にし、うつすらと目をあけると、目の前では数本の木がジンを護るように新たに生えていた。

アニス達妖精は、何か一つの力がある。

アニスが大気中の水分を氷結させ氷を生み出すように、ジンは木を地面より生み出したのだ。

「手加減してあげようと思ったのが、間違いだったようね。」

先程の攻撃を防がれ、アニスは更にご立腹のようだ。

「ごめんなさい。ごめんなさい。」

アニスから何かとてつもないオーラを感じたのだろう。ジンは慌て

てその場より離れながら、謝りだす。

「こらっっ。逃げるなあ。」

小さな氷のツブテが、ジンを襲う。

「い、嫌だっ！」

ジンは慌ててアニスの家を飛び出した。

（オレのバカバカ。アニスの団子だったってなんで気付かなかったんだ。）

ジンは自分の頭をポカポカと叩きながら、アニスから逃げる。

「こらっっ！待てっ！」

アニスが次々とツブテを作ってはジンへと投げ付けてくる。

「うぎゃ！」

とうとうその中の一つが、ジンに直撃した。

「ああっっっっ！」

キリモミしながら落ちていくジンを尻目に、アニスは直径20cmはあるうかと思われる、巨大な氷の塊を作り上げている。

「さようなら。ジン」

アニスは頭上に作り上げたそれを力の限りジンに投げ付けた。

クリーンヒット

落下の勢いもあり、ジンは激しい衝撃とともに、地面へと叩き付けられた。

「きゅっっ」

目を回し、ぴくぴくと痙攣を起こしているジンの上にアニスが着地する。

「これでわかった？食べ物への恨みは恐いのよ。」

爪先でグリグリとジンを踏み付けながら、ニヤリと笑う。

その顔は、どこかうれしそうな顔をしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1084b/>

食べ物の恨みは恐いのよ！

2010年10月10日02時38分発行